



校長 酒井 治 己

本日ここに、水産大学校本科181名、専攻科48名、水産学研究科11名の平成28年度卒業式並びに修了式を挙げるにあたり、水産大学校校長として式辞を申し上げます。

卒業生、修了生諸君の未来を祝福するとともに、これまで支えてこられた保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。また、佐藤一雄 水産庁長官、水産研究・教育機構 宮原正典 理事長、水産大学校同窓会滄溟会 本村紘治郎 会長、水産大学校後援会 濱田盛承 理事をはじめ、ご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、国立研究開発法人水産研究・教育機構の人材育成部門である水産大学校は、韓国釜山に創立されて以来、終戦、昭和、平成の奔流を乗り切り、76年間を水産教育一筋に邁進して、1万余名の卒業生を水産業界に送り出してきました。これから諸君はその一員、すなわち同窓生となるわけです。

本校は、実学教育を旨としています。それは積極的な行動を通しての実践的な学びから、ものの本質を見極め、新境地を開拓する能力を身に付けることを目指しています。諸君は実学としての水産教育を受け、社会人としての基礎力、適応力、開拓力、解決力を身に付けたはずです。それらの力とリーダーシッ

プを遺憾なく発揮し、これからの日本ならびに国際社会の発展に貢献して戴きたいと思えます。

しかし、その実社会では、グローバル化の名のもとに、人、物、金が流動化し、一つの価値基準では事が進まないようになってきています。一方で、予期せず世の中の価値の潮目が変わる事も有り得ます。諸君は、そのような時代の激流に流される事なく社会を泳ぎ切る必要に迫られます。そこで諸君の助けとなるのが様々な人との繋がりなのです。1万余名の同窓生がまさに諸君の水産界における人脈となるのです。

この卒業式会場に至る坂の途中に、創立時の初代校長、田中耕之助先生並びに教頭、松生義勝先生の胸像が建てられています。水産大学校が現在この下関の地にあるのは、終戦、引揚げ時のお二人の尋常ならざるご努力の賜物と伺っています。松生先生は、「君たちは漁網の結節のように繋がっていなければならぬ」という卒業生へのはなむけのお言葉を残されています。人の繋がり、分けても同窓の結びつきは、本校の伝統と言っても良いでしょう。

実社会は、温かくまた時に厳しく諸君を受け入れてくれるはずで、社会での多くの人との連携をどうぞ大切に、柔軟かつしぶとくご活躍ください。そして、数年後には本校の後輩を包み迎えるような社会の先輩とならんことを念願するとともに、諸君の健闘を心より祈念し、式辞といたします。